ヤングこだま

吉賀高

小・中・高校生から専門学校、大学生まで、若い人たちの意見を特集するコーナー「ヤングこだま」です。今回も島根県立吉賀高校3年生の皆さんです。学校、学級単位での投稿を募っています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話0852（32）3305までご連絡ください。

救急救命士になり恩返しを

3年　石田　一真

私は将来、救急救命士になりたいと考えているので、今春、救急救命学科がある大学へ進学します。その後は地元の島根県へ帰りたいと考えています。その理由は二つあります。

まず、一つ目は、自分が生まれ育った地元へ恩返しをしたいと考えたからです。二つ目は、島根県は全国で高齢化率第3位であるだけでなく、県西部は病院が少なく、患者搬送までに時間がかかってしまうからです。

この二つの理由から、一人でも多くの人を助け、恩返しをしたいと思いました。

今、救急救命士にできる医療行為は少しずつ広がり続けています。それとともに、たくさんの知識が求められると思いますが、日々進化し続ける医療技術に置いていかれないように、努力し続けていきたいと思います。知識だけでなく、救急救命士にはいろいろな力も必要なので、いろいろなことに挑戦し、頑張っていきたいと思います。

家族にたくさん感謝の言葉

3年　泉　友媛

私は今春から新生活が始まる。今までは、家に帰るとおいしい食事があったり、学校への送り迎えをしてもらったりと、家族という存在が当たり前にあり、難なく生活していた。

また、外的な面だけでなく、何かに失敗して落ち込んでいた時や悩んでいた時に、支えになってくれたのはやはり家族だった。感謝することがたくさんあるにもかかわらず、つい反抗してしまったり、素直になれない時もあったりした。家族にはこんなにも助けられているのに、「ありがとう」のたったひと言が言えずにいた。

これから私は進学し、家族がいない環境で生活する。当たり前だったことがなくなる不安やさみしさがある。また、学費や家賃など多くのお金が必要になるが、それを負担してくれるのが両親である。これからは今まで以上に感謝すると思う。

そんな家族のためにも、夢をかなえて恩返ししたいと思っている。そして、ずっと言えなかった「ありがとう」をたくさん言っていきたい。

相手を思いやることが大切

3年　山元　花梨

私は今年こそ、この世の中のみんなが傷つかず、笑顔あふれる平和な世界になることを願っている。

昨年は、児童や親など20人が被害者となった川崎での無差別殺傷事件のように、理由もなく他人を殺傷した事件や多くの虐待事件など、悲しくなるようなニュースをたくさん見聞きした。

なぜ関係のない人を傷つけるのだろうか、なぜ授かったわが子の大事な体を傷つけるのだろうか。命の大切さをもっと知ってほしい、といろいろな感情を持った。

この世の中には幸せに暮らしている人もいれば、そうでない人もいて、事件の加害者が一方的に悪い場合もあれば、そうでないこともある。

罪は決して許してはいけないけれど、周りの人からの何かの押しつけ、仕事での責任感など、加害者にもいろいろな理由があるということを理解するべきだと思う。

私はあのような事件が起こらないために、世の中の一人一人が言葉や行動に気を付け、相手を思いやることが大切だと思う。全員が全員というのはすぐには難しいかもしれないけど、一人一人が意識することでその優しさは広がると思う。

感謝の気持ち忘れずに精進

3年　庵野　春花

4月からは大学進学のため、島根県を出て1人暮らしを始めます。

大学では、貧困と教育に関わる経済学や政治学を学び、国際社会に貢献できる人材を目指しています。貧富の差が生まれるのはさまざまな理由があり、その一つは教育の格差だと考え、どのような対策が有効かということを深く学び、実践できる人になりたいと思います。

このように、私がやりたいことや夢に向かって進むことができるのは、応援してくれる家族や友達のおかげだと思っています。私が興味を持ったことや好きなことは何でも挑戦させてくれ、そばで見守ってくれる家族や、話を聴いてくれる友達がいることに感謝しています。また、地元を離れてから、周りの環境のありがたさに再び気付くことができると思います。

これからは、応援してくれている家族や友人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、少しでも恩返しができるように、また自分の目標や夢が実現するように一生懸命頑張りたいと思います。

「新年の願い」（高校生版）

若のひろば

俳句

◇松江いきいきクラブ寿俳句会（松江市）

目じるしの赤き紐つけ種茄子　福村ミサ子
山寺の紅葉を映し心字池　山根　一枝
秋茄子や紫光る色が好き　芦田　益子
舞台より児を追ふ大蛇村祭　石田　直子
写経して総てに感謝敬老日　石原美枝子
幻想の世界に入る水燈路　森脇　昭江
秋時雨木々は黙想してをりぬ　吉川　由
蛇穴に入るか草むら揺れてをり　三浦　純子

◇高櫓俳句会（出雲市）

母の夢とぎれては見る夜長かな　丹後　魚舟
朝露を踏みつ草刈る夫愛し　川合八重子

私の作品

川柳

◇わいわい川柳楽しむ会（松江市）

なんじゃもんじゃはっぱがきれいいいきもち　石橋夢空
雨上がり水たまりよけさんぽした　常松桜咲子
大きいなはじめてきたよまつえじょう　石川　侑樹
私をねとりかこむよに大きな木　竹山　樹理
松江城かいだんおりるのこわかった　原田　一美
雨上がりいろんなにおいまざってる　じゅり
小雨降るお城の中は木の匂い　横山　遥美
ふえの音をたどって歩くさんぽ道　仁宮　光
吟行に目線を変えて人や城　田中　堂太

◇川柳会めだか（出雲市）

気にしてる事話題になった茶飲会　佐藤あけ美

女子ログ

草

「女は路に迷いなかを知らぬ様での如く、ただ不可とがちょっと読み句にならない。―無量――何か動詞「動詞なんぞ入沢山です」

「え？」

轟と音がして山ず顔を見合わす途に活けた、椿がふ

吉田修一説「横浜崎県出身に積もっびする場ではめったに雪は降らっ白になることもない。私は山陰の生まれなも一応九州男児の主人うはずなのだが、以前とき、たまに見る都内して嫌ではなかった。

きょうの歴史

▽1914年　桜メートルに達し、流出した続きに。マグニチュいた。死者、行方不